

### 3 障害と比較した難病の職業的課題

(障害者職業総合センター調査研究報告書 No.103「難病のある人の雇用管理の課題と雇用支援のあり方に関する研究」, 2011 から抜粋)

#### 1 多様な障害種類・程度の雇用の一般的課題

「雇用の一般的課題」は、「仕事上の身分、仕事内容が安定して継続すること」「仕事を継続すること」「昇進をすること」「適当な報酬を得ること」の4項目の標準得点の平均値である。

就業継続や処遇に関する「雇用の一般的課題」は、3障害等では、大部分の障害において、効果的な取組の有無で問題状況が大きく影響されており、効果的な取組がない場合に多くの障害で問題が多くなっていた。効果的な取組がない場合に、特に問題が多かったのは、統合失調症、不安障害・パニック障害、気分障害、高次脳機能障害、知的障害のない発達障害、重・中度知的障害、尿路変更等、知的障害のある発達障害、てんかんであった。それ以外にも、頸髄損傷、弱視・視野障害、重度聴覚障害、軽度知的障害、HIVによる免疫機能障害、難聴、心臓機能障害等でも、効果的な取組がない場合には「雇用の一般的課題」で問題が多くなっていた。その一方で、3障害の場合、効果的な取組があれば「雇用の一般的課題」が少なくなっている障害がかなり見られた。

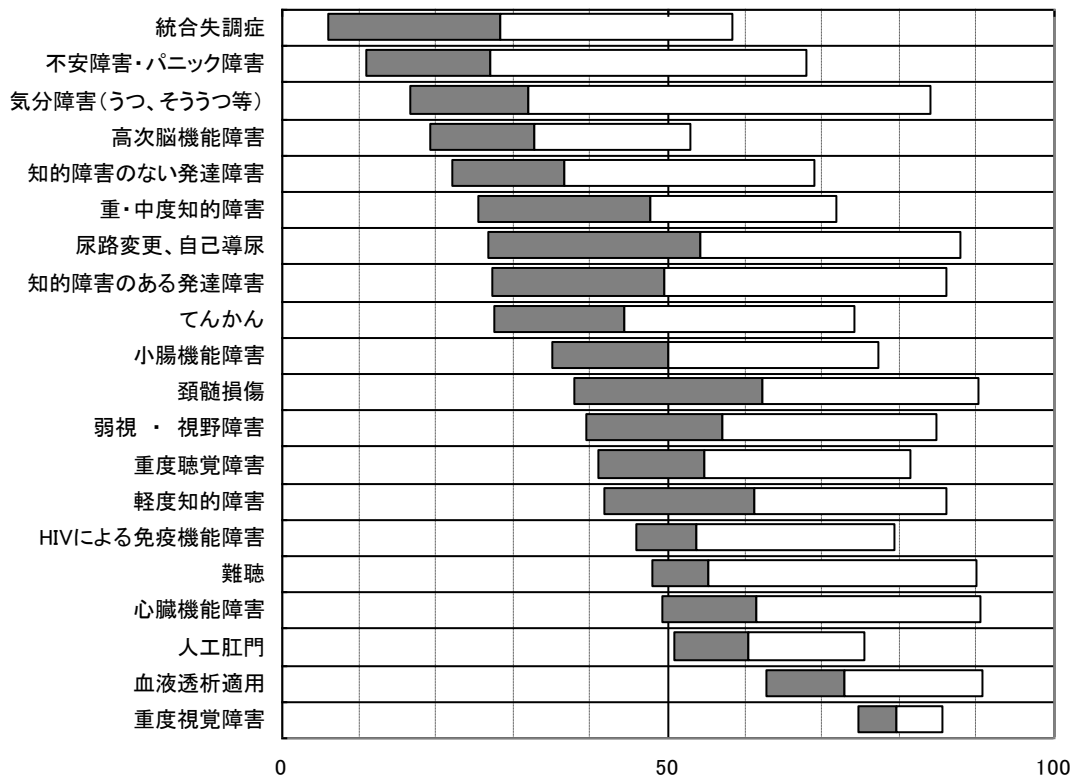


図 A1-2-7. 3障害等の職業的課題「雇用の一般的課題」の状況

- ・スケールは、様々な障害種類・取組状況と比較した相対的な問題状況の標準尺度。95以上が問題の無い状況（障害のない人と同程度）、0が様々な障害種類や取組状況で最も問題の大きな状況を示す。
- ・灰色と白色を合わせた横バーの左端の値は、表 A1-2-1 に示す各障害種類の効果的な取組が全て実施されていない場合。右端は、その一群の効果的な取組が全て実施されている場合の値。現状における効果的な取組の取組状況はその中間であり、現状の問題改善状況は灰色と白色の境界の値で示される。

## 2 難病の雇用の一般的課題

「雇用の一般的課題」は、「仕事上の身分、仕事内容が安定して継続すること」「仕事を継続すること」「昇進をすること」「適当な報酬を得ること」の4項目の標準得点の平均値である。

障害者手帳のある場合に、効果的な取組がないと就業継続や処遇等の「雇用の一般的課題」において多くの問題が生じ、効果的な取組がある場合でも残存問題が比較的多くなっていた。

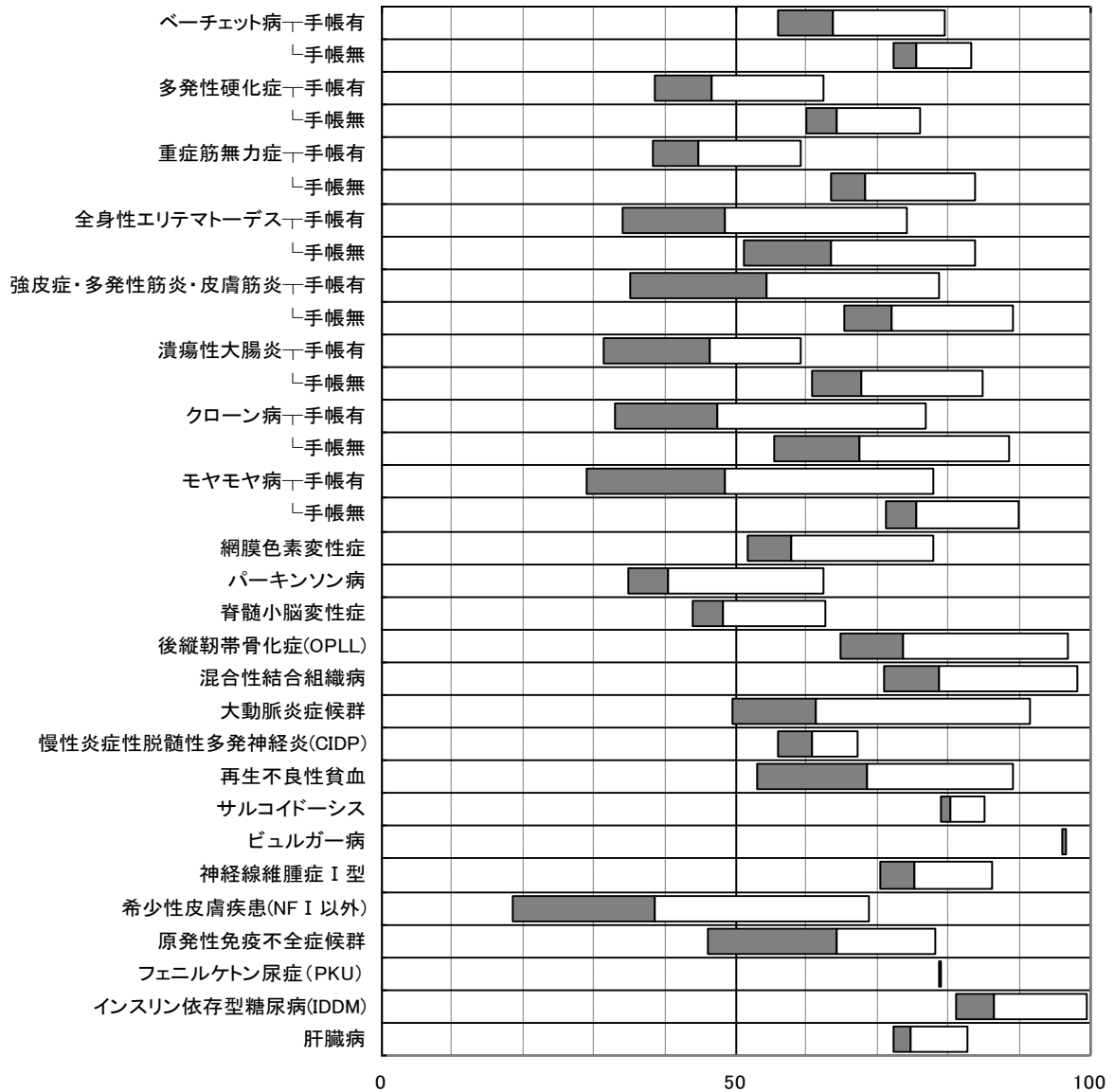


図 7-2-7. 様々な難病の職業的課題「雇用の一般的課題」の状況

- ・スケールは、様々な障害種類・取組状況と比較した相対的な問題状況の標準尺度。95以上が問題の無い状況（障害のない人と同程度）、0が様々な障害種類や取組状況で最も問題の大きな状況を示す。
- ・灰色と白色を合わせた横バーの左端の値は、表 7-2-1 に示す各疾患の効果的取組が全て実施されていない場合。右端は、その一群の効果的取組が全て実施されている場合の値。現状における効果的な取組の取組状況はその中間であり、現状の問題改善状況は灰色と白色の境界の値で示される。